
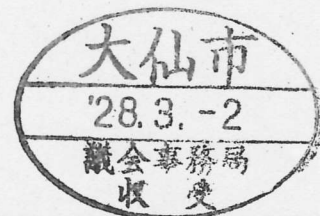


(様式第2号)

会派政務調査活動（行政視察）報告書
（総括）

会派名	市民クラブ
会派の代表者名	佐藤隆盛  □
視察（調査）期日	平成28年2月3日（水）～平成28年2月5日（金）
視察（調査）先	稲敷市 つくば市
視察（調査）の目的 （大仙市の現状と選定理由等）	稲敷市 人口減少対策について つくば市 「（株）農業法人みずほ」経営について
視察（調査）の行程	別紙のとおり
視察（調査）への参加議員名	佐藤 隆盛
視察（調査）概要	人口減少対策について、政策企画長、人口減少対策室長から説明を受けた。 （株）みずほ代表取締役より生産者の立場と消費者ニーズを求めている説明を受けた。



<p>視察(調査)の成果と本市に反映できる事項或いは反映させたい事項について</p>	<p>稲敷市では、副市長を中心とした9部長級職員による「人口減少対策プロジェクトチーム」を組織するとともに、15名の新卒採用職員を「人口減少対策ワーキングチーム」として稼働させ、その対象者のニーズや課題を的確に把握しながら、その効果を得るために単発でない、複合的(パッケージ化)な人口減少対策メニューの作成を行うこととしていた。</p> <p>また、若い女性をはじめ、若い方々が働き、出会い、結婚し、出産・育児等のライフステージを稲敷市内で過ごしていただくとともに、多くの子供の笑顔あふれる地域をめざし、このため4つの基本目標柱に、「雇用」、「移住定住」、「子育て」の支援の追加・強化とともに、その情報発信を含め「シティプロモーション」を高め、日本一、茨城一を目指すプロジェクトを掲げ取り組んでいた。三世代マイホーム購入に最大140万円補助や保育所の保育料を平均30%の軽減など、手厚い予算を盛り込んでいた。</p> <p>みずほ村市場では、運営の考え方として生産者は</p> <ul style="list-style-type: none"> ○農家の生活が豊かになればいいとして <ul style="list-style-type: none"> 半分の面積で、従来通りの所得を確保し余暇を豊かに過ごす等。 ○生産者の立場に立つ <ul style="list-style-type: none"> 安売りの産直では行き詰まり、結果的に農家の生活が苦しくなる。 原価計算に基づく価格の設定により生産者に利益がでるようにする。 そのためには最高の品質を生産できるようにする。 ○農産物に高い、安いはない <ul style="list-style-type: none"> 中身(成分)が違うのだから、自分で値段が付けられるように。 消費者は農業を理解した人だけ買ってくれればいい。 とのことであった。
<p>その他 (会派としての総合的意見、上記成果への今後の取り組み等)</p>	<p>稲敷市では2040年人口推計によると、茨城県内で44市町村の内18市町村が「消滅可能性都市」と判定され、稲敷市は5番の順位とのことで、危機感を持ち「稲敷市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」プランをつくり、特に若い職員が真剣に取り組んでおり参考になった。</p> <p>みずほ村市場の直売所へ60Km圏内の消費者が訪れるそうで、年間延べ利用者数は30万人、販売額6.3億円とのことであり、何よりも販売する品物、大根からネギ、アスパラまで煮て試食させており、販売意欲に感心し参考になった。</p>